

## 医学書院ナースングカフェ

## 「ファシリテーションと支援型リーダーシップ」開催

人が集い、何かを話し合ったり、学んだり、創造しようとするとき、そこにいる人々が遠慮なく発言や参加ができるような場をつくる。円滑なコミュニケーションを育むことによって、意見や感情のやりとりをスムーズにし、共に学び創造するプロセスが実り多いものになるよう促していく。こうした対話の場を支援するための「ファシリテーション」技術への看護管理者からの関心が高まっています。

2018年12月1日(土)、東京都文京区の医学書院本社を会場に、医学書院ナースングカフェ「ファシリテーションと支援型リーダーシップ——各自の主体性を育む場づくり」を開催しました。本誌の特集や連載でおなじみの中野民夫氏(東京工業大学)、浦山絵里氏(ナースファシリテーター)、森雅浩氏(Be-Nature School)の3氏が講師を務め、看護管理者を中心とする全国からの参加者が、ファシリテーションを活かした支援型リーダーシップのありようや、現場で対話型の場づくりを実践するための具体的なマインドとスキルを学びました。

午前中は講師陣がファシリテーターを務めるワークショップで、ファシリテーションの効果を実感。午後はレクチャーと「カンファレンス実習」を通じて、ファシリテーションのスキルとプログラムデザインの基本をしっかりと身につけました(写真1)。レクチャーでは、講師

陣による本誌での特集や連載の内容も活用されました。

以下に、当日ご参加いただいた谷川幸弘さんの研修参加記を紹介します。

## 【研修参加記】

## 支援型リーダーとして行動するための具体的なマインドとスキルを学ぶ

東御市民病院 看護部長

谷川幸弘

これまで、当院では一方向的な講義形式の研修会や伝達講習会は数多く企画してきました。しかし「スタッフが相互に学び合う場」という理念を中心に置いた研修は、実現を望みながらも企画したことはなかったように思います。

当院看護部では、「病院、看護部の理念に基づき、豊かな感性と倫理観、専門的知識・技術を習得し、質の高い看護が提供できる看護師の育成をめざし、主体的に学び、ともに教え、ともに育つこと」を教育理念として活動してきました。しかし、「ともに」ということは、どうなることなのか、どうなりたいのかが、明文化されていませんでした。

自院の組織文化の中に「やらされ感」も存在しており、「主体性」を持ったスタッフの育成、自己燃焼型の人材を育成するためのスキルを学びたいという思いを持っていました。そのような中、今回のセミナーの開催を知り、参加いたしました。

また、かねてから「支援型リーダーシップ」について学びたいという思いもありました。セミナーのタイトルにもある「支援型リーダーシップ」からは、「サーバント(奉仕型)リーダーシップ」の概念も連想され、その考え方を具体的に学べるのではないかと感じたことも参加の動機になりました。

実際に参加して、当院では各自の「主体性」を発揮するための準備ができていなかったことを思い知らされました。つまり、相互の対話が促進されるような「場づくり」をしていない会議や研修を続けてきたことに気づいたのです。それが、スタッフの「主体性」を活性化できなかった要因かもしれないと感じています。

1日のセミナーでしたが、参加型の研修を自らが体験した上で、その基本技術を学ぶことができた有意義な時間でした。今後は、対話の場が目指す目標である「アウトカム」を丁寧に考え、学ぶ側に立ったプログラムデザインを作成し、研修会を企画したいと考えています。

また、セミナーで使われた対話を促進するための大切なツール「えんたくん」(写真2)を購入し、まず、看護師長が互いに学び合う対話型研修会で活用してみたいと思います。この研修会のアウトカムは、それぞれの看護管理実践を仲間たちから「いいね」と言ってもらうこと。「本当の学び」ができる看護部を目指すための旗揚げの場にしたいとも思っています。



写真1 中野民夫氏ら講師陣から、支援型リーダーシップとファシリテーションの基本・心構えについてレクチャーが行われた。



写真2 「えんたくんミーティング」(ワールドカフェ)の模様。